

第5回 日本胸部外科女性医師の会
5th meeting for Women in Thoracic Surgery in Japan

活動報告書

代表世話人

富澤康子	(東京女子医科大学)
齋藤 綾	(東京大学)
林田恭子	(草津総合病院)

はじめに

日本胸部外科女性医師の会も今年で 5 回目を迎えることが出来ました。医療全般において女性医師を取り巻く環境が年々変化するに従い、外科領域における女性医師の状況も変遷を辿りつつあります。非常に専門性が高いこの胸部外科領域において、積極的および確実にキャリアを積み仕事を継続していきたいと考えるのは性別を問わずごく自然なことと思われます。しかし、現実問題として多大な時間・体力を必要とされるこの領域においては、女性特有の悩み・状況によりキャリアの継続が困難となる状況が過去に存在してきた事実も否認できません。一方で、必ずしも体制不備の問題だけではなく「社会の中の個人・社会とのつながり・社会的責任」に対して我々がもつ意識の未熟さが影響してきた可能性も否定しきれません。本会を設立し継続するに際して、参加者お互いの情報・経験に関する情報交換をし、我々を取り巻く社会状況を勉強し、様々なケースを「識る」ことで、より一層積極的にキャリアを継続していくきっかけになるよう少しでもお役に立つことを目標として開催して参りました。

今年は世話人らのミニレクチャーに加えタイからゲストを迎え講演をいただくことが出来ましたので、要旨のご紹介と共に会の内容について御報告いたします。

第5回日本胸部外科女性医師の会

日時：2010年10月25日 朝6時30分～9時

場所：大阪国際会議場 10F 会議室 1009

参加者： Dr. Peenutchanee Chartiburus (Rajavithi Hospital, Banbkok,)

(以下 アイウエオ順)

浦中康子先生 (横浜市立市民病院)

小野 稔先生 (東京大学)

須藤三和先生 (広島市立安佐市民病院)

高井文恵先生 (京都大学)

戸口佳代先生 (済生会和歌山病院)

圓尾文子先生 (兵庫県立こども病院)

八木葉子先生 (八戸赤十字病院)

石川靖子様 (CSLベーリング)

清永綾子様 (CSLベーリング)

長尾久美子様 (エドワーズライフサイエンス)

長崎優希様 (エドワーズライフサイエンス)

寺井大輔様 (テルモ株式会社)

福井 勇様 (マッケ・ジャパン)

渡辺由里様 (エドワーズライフサイエンス)

および世話人 (富澤・齋藤・林田)

以上 18 名

プログラム

6：30～朝食会

7：00～ ミニレクチャー 1（講師 東京女子医科大学 富澤康子）
「女性外科医支援について」

7：30～ ミニレクチャー 2（講師 東京大学 齋藤 綾）
「ネットワークについて考える」

8：00～ 講演

「Thai experience in Cardiac Surgery」

講師 Dr. Peenutchanee Chartiburus

(The Institute of Cardiovascular Diseases, Rajavithi Hospital Bangkok)

集会概要：

今年で胸部外科学会女性医師の会創立5年目を迎えました。佐野俊二先生のご配慮により、本年も日本胸部外科学会定期学術集会に併設し第5回定例会を開催することができました。

内容は、通常通り簡単な朝食会および本会の活動に関連するミニレクチャー2題により構成されておりました。第一題目は東京女子医科大学 富澤康子氏より日本全体における女性医師処遇改善の活動状況について、詳細なデータ（女性医師の外科医に占める割合、外国における支援の状況、学会における支援への意識に関する報告）が提示されました。また、今後の課題として、育児支援を実施している修練施設、専門医更新留保条件に妊娠・出産、他を含めることを提案されました。次に、東京大学 齋藤 綾氏によりネットワーク作りの根本的性質・社会的ネットワークの歴史・仕組み・長所・短所に関する知見について紹介され、胸部外科領域における女性医師間のネットワーク作りのもたらす有用性・意義について考察されました。個々が専門性の高い職業人であるため、職業の継続・家庭との両立など様々な状況に対処する上で一定の情報交換網を持つことが有用であることが理論的に説明されました。最後にタ

イ・バンコック Rajavithi Hospital, the Institute of Cardiovascular Disease の理事でありタイで初めての女性心臓外科医でもある Dr. Chartiburus より、タイにおける胸部外科領域における臨床・教育システム・手術件数について紹介された。Dr. Chartiburus のご希望により round table 形式で講演を行い、活発な質疑応答が交わされました。タイには彼女を含め女性医師数は 6 人と少数であり当会（WTS in Japan）のような組織が持てるほどの人数ではなく、日本における当会の存在に対し賛辞のお言葉をいただきました。

会の開催中は、企業よりご参加いただいた方々にボランティアで受付や照明係をお手伝いいただき、会も滞りなく進行させることができました。

胸部外科学会総会のスケジュールが非常に緊密であったにもかかわらず多くの方々にご参加いただくことが出来、本年の定例会を修了することが出来ました。

（文責：齋藤 綾）

2010 年度 会計

支出

通信費	6,840 円
会場設営費	124,740 円
合計	131,580 円

収入

定例会参加費	16,000 円
日本胸部外科学会 共催費	124,740 円
合計	140,740 円

前年度繰越金 357,084 円

総計 366,244 円

(366,244 円は来年度へ繰り越し)

(会計：林田恭子)

おわりに

現在日本胸部外科学会に登録している女性会員は一般会員 291 名、正会員 23 名、評議員 1 名、その他を含め総勢 320 名と年々その数は増加しております。様々なライフスタイルを維持しつつ高度医療にわっていくためにこの会が女性医師同士お互い知識や経験を共有し、協力し合うきっかけとなることが出来れば幸いと信じつつ、来年に向けて世話人一同邁進する所存でおります。

また、各会員の意見の収集所として且つ各種学会における男女共同参画関連委員会との架け橋として各問題点を解決に導くために、この会が今後お役に立つことができれば幸いと存じております。